

序

東京都健康安全研究センターは都民の生命と健康を守るための科学的・技術的拠点として、感染症のまん延防止や食品、飲用水、医薬品及び生活環境等の安全確保のための試験検査に加え、食品や環境、医薬品の監視指導等を行っています。

こうした機能をより一層強化していくために、平常時から試験検査の精度管理に努めるだけでなく、試験検査の効率性や迅速性、正確性などを高めたり、新しい検査法を開発するための研究を行うことも当センターの重要な役割の一つです。さらに、都民の健康に対する未知の脅威を早期に発見し、必要な措置を講じ予防するための研究も併せて行っています。

本研究年報は、平成27年度に当センターが取り組んだ研究の成果をまとめたものです。この中には、前年に都内で70年ぶりに国内発生したデング熱に関する媒介蚊及びデングウイルスの検査に関する報告をはじめ、危険ドラッグに関する研究や、農産物中の残留農薬に関する実態調査結果など、全35題の論文を掲載しました。

こうした研究の成果は、当センターの財産であると同時に、他の施設にも参考にしていただきたいと考えており、本冊子のほか当センターのホームページ上でも公表しています。関係者の皆様には、是非、ご活用いただくとともに、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。当センターとしては、今後もこうした研究を積み重ねることで、東京都の危機管理対応力の向上に取り組んでまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

平成29年3月

東京都健康安全研究センター所長
大 井 洋

